

熊本城下成立前史－中世以前を中心として－

熊本城調査研究センター 野上 寛登

I はじめに

16 世紀後半、肥後国に入国した加藤清正は、茶臼山に熊本城を築城した。築城後、城の周辺には武家屋敷や町屋が整備され、熊本城下が成立した。では、熊本城築城以前の城域および城下(以下、城下【図 1 太線内】)はどのような土地利用が成されてきたのか、発掘調査成果をもとに考察する。

II 城下分布遺跡各説

(1) 縄文時代

千原台丘陵や大江付近では縄文時代の遺跡が確認されているものの、城下でのまとまった出土例は認められない。今後の資料の増加に期待したい。

(2) 藤園中学校校庭遺跡【図 1、②】

弥生時代中期後半(紀元前後)の墓域であり、校庭工事中に 2 基の甕棺が出土した【図 2】。1 号・2 号甕棺には若干の時期差が認められる。1977 年に船場町遺跡で出土した甕棺と比較すると、当遺跡の甕棺の方がやや古い時期に比定される。また、その他の出土遺物からも、当墓域は本来相当数の墓群を形成していたと推定される。

(3) 船場町遺跡【図 1、③】

弥生時代中期から後期(紀元前 2 世紀～紀元後 3 世紀)の墓域である。1977 年の工事の際に黒髪式(後期)の合口甕棺【図 3】が出土し、熊本市の調査では中期中頃の須玖式甕棺片も確認された。隣接する古町遺跡【図 1、⑮】では弥生時代中期・後期の竪穴建物などが出土しており、船場町遺跡周辺が墓域、古町遺跡周辺が集落域であったと推定される。

(4) 古城横穴墓群【図 1、①－①】

6 世紀後葉から 7 世紀後葉にかけて築造された横穴墓群であり、高さ約 15m、幅約 100m の崖面に 53 基が確認されている。構造は羨門部がアーチ状、玄室天井部がドーム形で、左右と奥に合計 3 区の屍床を持つ例が多い【図 4】。37 号墓では 2 体分の人骨と須恵器が完形で出土し、6 号墓では 9 人以上の埋葬が確認された。その他、馬具や銘文入り閉塞石なども出土している。

(5) 千葉城横穴墓【図 1、①－②】

7 世紀の横穴墓であり、1962 年の NHK 建設時に 10 基が確認された。遺物は総じて前庭部から出土しており、墓前祭祀の存在が推定される。2022 年の調査では、NHK 建設時の層から紀年銘象嵌鉄刀が出土し、「甲子年五□(月カ) □(中カ)」の銘文から 604 年の製作と考えられる。また、1962 年出土土器との時期的整合性も認められる。

(6) 伝大道寺遺跡群【図 1、④】

7 世紀後半から 9 世紀にかけての古代寺院推定地である。当該地からは、鞠智城の瓦と併行期の瓦【図 6】や鴻臚館系瓦などの古瓦が出土しており、これらの遺物は 7 世紀後半～8 世紀以降に瓦葺き建物が存在した可能性を示唆する。『肥後國誌』には、京町 2 丁目周辺に大道寺という天台宗の寺院が存在したとされ、出土瓦はこの寺院に関連する遺物である可能性がある。さらに、鴻臚館系瓦の出土からこの寺院が郡寺にあたる可能性も指摘される。建物配置については、天台密教特有の山岳伽藍配置が推定される。

(7) 藤崎八幡宮跡【図 1、①－③】

10 世紀(935 年頃)から 19 世紀(1877 年)にかけての寺社遺跡である。『社記』によれ

ば、承平5年(935年)に朱雀天皇が平将門追討を願い、石清水八幡宮を勧請したとされるが、実際には宇佐八幡宮の神宮寺(弥勒寺)の支配下として成立したと考えられる。1960年頃の調査では創建当時の遺構・遺物は確認されなかったが、福建省産白磁碗や14世紀の中国南部産白磁皿など中世藤崎八幡宮に関連すると思われる遺物などが少量出土している。

(8) 二本木遺跡群【図1、⑤】

8世紀から17世紀にかけての都市遺跡で、国府に関連する地名や塔心礎、布目瓦の出土から国府推定地とされる。特に輸入陶磁器などの希少品の出土量は県内でも突出している。1999年・2003年の調査では、8～9世紀の大型総柱建物や整然と配置された建物群【図7】が確認され、当時この地に国府が存在した可能性が高い。9世紀後半には、一時的に役所関連施設が消失するが、10世紀後半～11世紀初頭には二本木に国府が再建され、肥後の中心的機能が再確立した。17世紀になると徐々に遺構数が減少することから、熊本城築城に伴って人口が城下へ移行したと推定される。

(9) 伝千葉城遺跡【図1、①～④】

15世紀中葉から末にかけての城郭であり、『肥後國誌』によれば出田秀信によって築城されたとされる。2022年の調査では中世と想定される遺物が微量出土したが、遺構や中世の堆積層は削平されており、考古学的根拠は乏しい。

(10) 隈本城跡遺跡【図1、①～⑤】

15世紀末から17世紀初頭にかけての城郭であり、鹿子木親員が築城したとされる。本丸は県立第一高校の所在する丘陵上と比定されるが、近世以降の土地利用により大半が破壊されている。第一高校に隣接する国立病院敷地内の調査では、16世紀前半の堀・柵・櫓などの防衛施設【図8】が確認された。国立病院と第一高校は現在切り通しで分断されているが、当時は連絡が可能であったと推定され、隈本城に関連する施設である可能性が高い。

Ⅲ まとめ

熊本城下において本格的な土地利用の開始は弥生時代以降であり、集落や墓域が形成された。7世紀には京町台地の崖面に横穴墓が築造され、7世紀後半には古瓦の出土などから寺院が営まれていた可能性があり、大道寺の存在が推定されている。8世紀には二本木一帯が肥後の中心的な地域として成立する。10世紀末～11世紀初頭の二本木国府再建に先立ち、藤崎八幡宮が茶臼山に勧請される。14世紀の遺跡は全国的に少なく、城下においても例外ではないようである。15世紀後半から16世紀にかけては隈本城が築城され、土地利用が再開される。そして、17世紀の熊本城築城および城下の成立に伴い、熊本城周辺の地域整備が著しく進んだ。以上のことから、熊本城下における土地利用は2000年以上の歴史を持ち、特に活発な時期は弥生時代・平安時代・近世以降にあたると考えられる。

図版出典・主要参考文献

熊本市 1998 『新熊本市史 通史編 第二巻中世』

熊本市教育委員会 1978 『熊本市中央南地区文化財調査報告書』

熊本市教育委員会 1980 『熊本市中央北地区文化財調査報告書』

熊本市教育委員会 2007 『二本木遺跡群Ⅱ－二本木遺跡群第13次調査区発掘調査報告書－』

熊本市熊本城調査研究センター 2020/2020/2021 『特別史跡熊本城跡総括報告書 調査研究編 第1/2/3分冊』

熊本市熊本城調査研究センター 2024 『熊本城跡発掘調査報告書 5－整備基本計画策定に向けた千葉城地区の発掘調

査一』

熊本県教育委員会 2012 『熊本城遺跡群古城上段』

熊本県教育委員会 2013 『伝大道寺遺跡群―熊本地方気象台遠隔露場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告―』

原田範昭 2020 「飽田南郷の拠点 二本木遺跡」『九州の中世Ⅱ 武士の拠点 鎌倉・室町時代』 高志書院



(太線は、『平山城肥後国熊本城廻絵図』(熊本県立図書館蔵)の城下の範囲を示す)

図1 熊本城下遺跡分布図(熊本城調査研究センター2020に加筆、作成)(S=1/25000)

1 熊本城遺跡群(1-1 古城横穴墓群、1-2 千葉城横穴墓、1-3 藤崎八幡宮跡、1-4 千葉城跡遺跡、1-5 隈本城跡遺跡)、2 藤園中学校校庭遺跡、3 船場町遺跡、4 伝大道寺遺跡群、5 二本木遺跡群、6 京町台遺跡群、7 寺原横穴群、8 京町2丁目遺跡、9 七軒町遺跡、10 内坪井遺跡、11 新馬借遺跡、12 山崎古墳、13 花畑邸跡、14 辛島町遺跡、15 古町遺跡、16 花岡山・万日山遺跡群

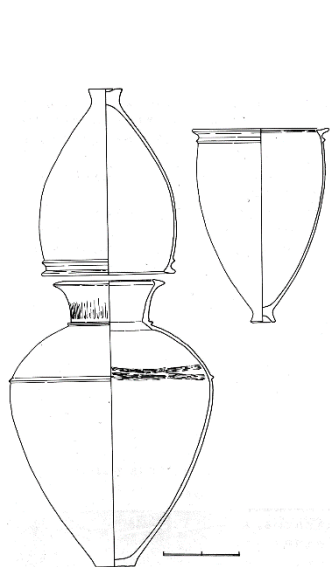


図2 藤園中学校校庭遺跡出土甕棺

左：1号 右：2号 (S=1/20)

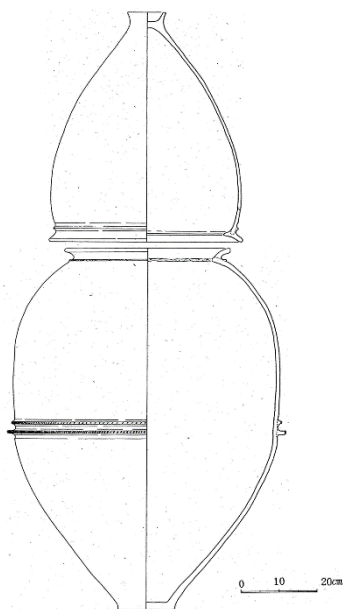


図3 船場町遺跡出土甕棺 (S=1/20)

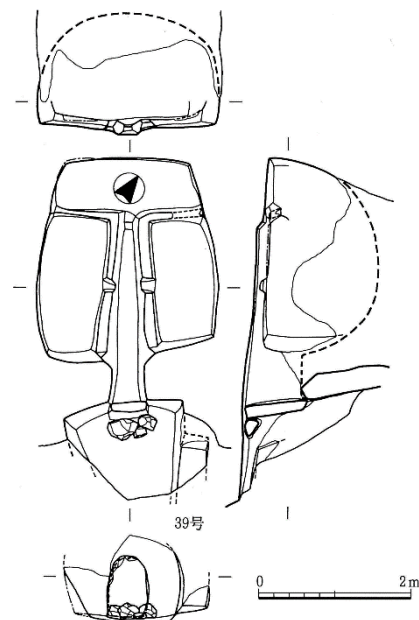


図4 古城横穴墓群 39号墓

(S=1/100)

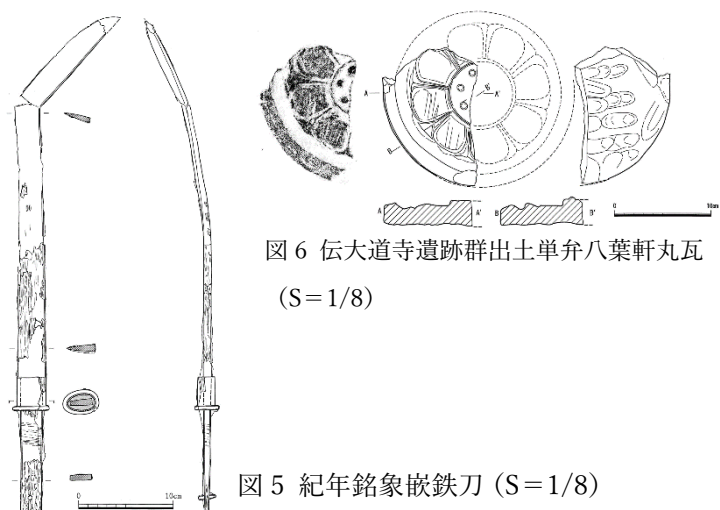


図5 紀年銘象嵌鉄刀 (S=1/8)

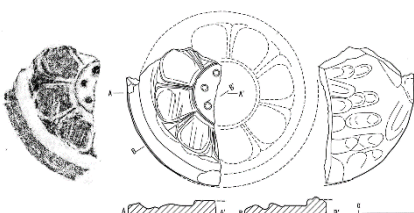


図6 伝大道寺遺跡群出土単弁八葉軒丸瓦

(S=1/8)



図7 二本木遺跡群大型建物群配置図 (S=1/800)

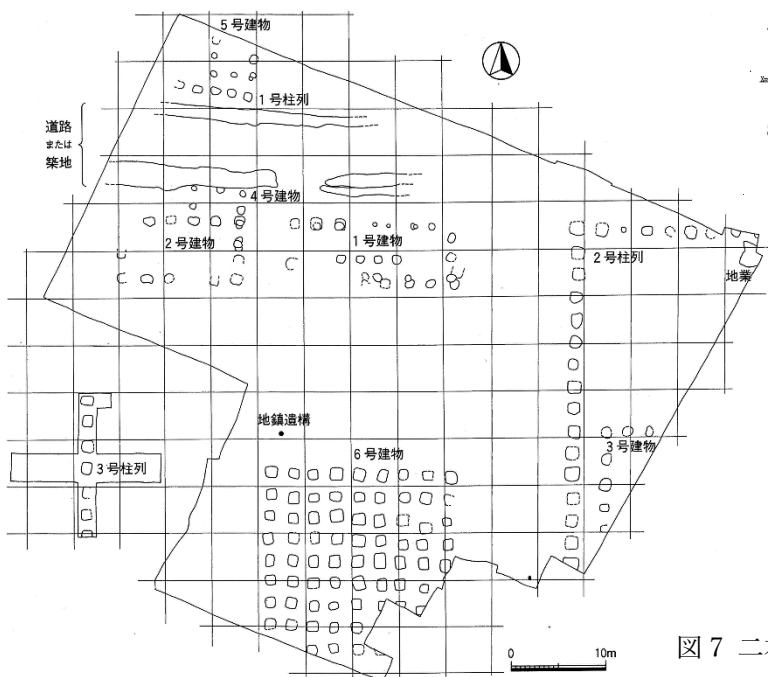


図8 限本城跡遺跡遺構配置図

(S=1/800)